

ジャパンプラズ

NEWS LETTER

Japan Club : 1759 Sutter Street #203, San Francisco, CA 94115 • Tel: 415-931-9424 • www.jpclub.org • jc-sf@sbcglobal.net

5月度理事会報告

ホントに

恒例「ガレージセール」5月28日に開催

大震災! 貴方はだいじょうぶですか? 災害に対する心構えをいっしょに考える・特別連載・

ジャパンプラズ 5月度の理事会は5月4日(水)午後6時半から日米会々議室において上野会長はじめ13名の理事(ほぼ全理事)が出席して開かれ、活発な意見交換がなされ、以下の事柄が討議されました。

議題1) ガレージセール

予定通り5月28日(土)に開催する、具体的に当日の予定、作業、役割分担を確認する。更に今回の売上金の一部を「東日本大震災」への義援金として送る事を決定。

議題2-1) 東日本大震災関連(義援金について)

義援金の募集協力について、本日(5月4日)迄にジャパンプラズに寄せられた義援金は更に増え4,000ドルを越えるものになりました、ご協力いただきました方々にお礼申し上げます、義援金の集り具合は毎月ニュースレターの締め切り日迄を単位にしてご報告します。又、会員の方のご寄付はニュースレター上で、会員以外の方からのご寄付に対しては会としてお礼状を出す事にしました。なお、募金いただいた方々には沖山会計理事から領収書発行の予定である事が説明されました。この募金活動は今しばらく続けていきますのでよろしくお願い致します。(関連記事参照)

議題2-2) 東日本大震災関連(講演会・座談会)

先月の理事会で議題となった「大震災と私達の心構え」を考える座談会と講師あるいは経験した人の話しを聞く機会を作る事について、5月14日(土)午後12時30分からジャパンセンター内、ユニオンバンク社交室で開きます、この大きな犠牲を払った大災害から同じ地震危険地域に住む私達は何かを学ばなければなりません、ぜひご参加ください。(理事会後、講演会開催が時間的な問題で会員への連絡が十分に出来ない恐れがある為、今回は中止日を改めて検討する事になりました、この講演会のために寄せられた貴重な経験談などをニュースレター上で今月号より特別連載をします。)

議題3) 第17回定期総会

定期総会(7月23日 土曜 午前11時より) バスクセンターで開きます、総会に引き続いて昨年も大好評だった食事を開きます。(詳細は6月号及び7月号ニュースレターでお知らせします)

議題4) インターネット・ホームページの活用

会員数の減少を止める対策、先月の理事会から引き続き検討している議題です、先月の案にあった「インターネット」の活用、「E-mailの活用」についてジャパンプラズのホームページを管理している浦田理事も出席され、色々な意見が出ました、この問題は更に検討する必要があります。今後浦田理事、今井理事が中心になって会員や理事の意見やアイデアをまとめて新しいホームページの活用を考える事になりました。特に若い会員を求めるとはかなり根本的な意識の改革が必要になりそうです。会の基本理念を踏まえた上で今後の方向を注意深く選んでいく必要があるようです。以上



・ 特 ・ 別 ・ 連 ・ 載 ・

「災害に対する心構え」を考える

今回の「東日本大震災」は同じ地震危険地域に住む私達にとって「対岸の火」では済まされません、予定されました講習会が時間的な事情で中止になりましたので今月号から講習会の為にお寄せいただいた貴重な体験レポート、専門的な知識、更には身近なアドバイスなどを連載いたします。

尚、災害に関する皆様からの質問等をお取り次ぎし、回答出来る様にしたいと思います、どしどしご質問やご意見などをお寄せ下さい。連載記事は2面に掲載されています。

この為、連載しておりました市川俊治氏による「年金問題...Q&A」及び今井利和会員による「タイランド滞在記」はしばらく休ませていただきます。

ジャパンプラズ・ガレージ Sale

日時: 5月28日(土曜) 8:30AM~4:00PM
場所: 2717 Trousdale Dr., Burlingame

昨年も好評でした、ナイフ研ぎを提供する事になりました、1本に付き\$2.00で計3本までお研ぎします、素晴らしい切れ味が期待出来ます、ぜひお持ち下さい!

今からでも遅くありません、ドナーネーションする品物がある方は担当の北 哲也理事 650-714-5958 までお知らせください。
なお今回の売上金の一部を「東日本大震災」への義援金として送る事になっております

東北・関東大震災への義援金

ジャパンプラズ会員、あるいは会員以外の方々からの義援金は5月号ニュースレター発行締め切り日(5/6)迄に更に増え、これ迄の総計は \$4,000 を越えるものとなりました。

4月8日以降に義援金をお寄せくださった会員の皆様にはこの紙面にてお礼申し上げます、尚、2名の会員以外の方には会からのお礼状をお出します。

ありがとうございました

(4/8以降5/6迄に募金された方のみ敬称略)

神村 純子 柏原 紀子 福光 哲史
クラハン 雅美

この他に 会員以外の方からお受けしました

「東北・関東大震災」関連行事案内

「東日本大震災」
救援資金捻出バザー

- ・手作りの工芸品・セラミック
- ・帽子・靴・アクセサリ・洋服
- ・人形・本・レコード
- ・その他オリジナルTシャツ、トートバッグ、リストバンド等もあります

日時: 5月中の毎土曜日
(7, 14, 21及び28日)
12時~午後6時まで
場所: 2599 Telegraph Ave.
Berkeley, CA



「東日本大震災」を仙台で被災した堤 博史さんからの実体験に基づく生々しいレポートです

このレポートは5月14日に予定していた「災害に対する心構え」講演会で発表される予定でした

■東日本大震災について

日本中、世界中の皆様からの温かいご支援をいただき、感謝に堪えません。全米各地の日系人からもたくさんの寄付をいただき始めました。改めて、皆様に御礼申し上げます。

ここ30年以内に発生する確率90%以上と言われ続けて来た宮城県沖地震でしたが、その想定をはるかに凌ぐ大地震(宮城県沖、岩手県沖、福島県沖の3連発地震で、宮城県沖はマグニチュード9)が発生しました。今回の大震災の最大の被害は、津波によるものである一言に尽きます。津波の高さで最大は、15メートルです。まだ、終息していない福島原発事故も死者行方不明者が4万人近いのもこの津波が原因です。今回の震度6強～7は、それはものすごいものです、現在の日本の建築基準で造られた建物であれば、倒壊することはありません。実際、仙台市内で倒壊した建物をほとんど見かけませんが、30年以上の前に建造された民家や地盤が軟弱な所に造られた建物には影響があるようです。(私見ですが、震度6強でも震源地が離れた場所の時と直下型の場合とでは、被害が違うように感じます。直下型だった阪神淡路大震災では、地震と火災による倒壊被害が大きかったようですが・・・)

■私個人の3月11日震災発生当日から今日までの経過:

＜3月11日＞

当日、私は、仙台空港近くの航空専門学校に勤務しておりましたが、午後から休暇を取りJR電車で仙台市内に戻る途中に被災しました。急停車した車両で2時間ほど待ち、やっと外に出られました。その後、徒歩で震災時の待ち合わせ場所(家族で決めている)に徒歩で向かいましたが、仙台市内での建物の倒壊や車の事故も全く無いようでした。

家族は自宅(マンション)にいる方がむしろ安全との判断で、自宅にいました。既に、午後6時半を過ぎていましたので、部屋は真っ暗でした。

＜3月12日＞

電気、水道、ガス全てが止まっており大変でした。電気が無いのでTVやラジオからの情報が取れず、一体世の中がどうなっているのだろうかと不安でした。ろうじて携帯電話のYahooを通して情報を見るくらいでしたが、携帯電話のバッテリーも無くなり困りました。新聞の号外が配られていて、津波による被害を知ることが出来ました。

＜3月13日＞

この辺りから少しずつ冷静になれたかなと思います。ガソリンスタンド、ドラッグストア等は、長蛇の列でした。今年の冬は、長くて厳しかったので、寒さの対応も大変でした。全く、暖房が使用できませんでした。

＜3月14日＞

強い余震が続いており、いつも身体が揺れているようでした。食料品に関して、我が家は、幸い保存食を準備していたので、何とか出来ました。この頃になるとライフラインが無いことによる衛生面に問題が発生して来ました。

＜4月14日＞

1ヶ月以上経って、やっとガスが復旧し、風呂に入れるようになりました。この日までに風呂に入ったのは、2回だけで、それまでは、お湯を沸かし身体を洗っていました。電気、水道、ガスが使えるようになって、やっと普段の生活に戻りつつある感じがします。

■地震に対する準備について:

サンフランシスコも地震の経験から色々な準備・体制を取っておられますので、然程のご心配はないものかと思えます。冒頭の通り、地震による大被害は、津波と火災だと思います。普通の建造物であれば、倒壊も無いと思えます。今回の経験で分かったことを箇条書きさせていただきます。

・余震について:本震後の余震は、かなり続きます。本震が強ければ強いだけ、余震も大きいです。3月11日から1ヶ月近い4月7日の余震は、震度6弱でした。毎日、震度5前後が5～6回もあり、精神的に参ります。

・ライフラインについて:地震後は、まず、電気・水道・ガスが止まります。この中でも最重要なのが、「水」です。飲料水とそれ以外の生活水(洗面等)の確保が大切です。食事の際は、食器をラップで覆って使えば、洗わなくてもいいようにするなどの工夫も重要です。

＜準備しておくもの＞

乾電池、ラジオ、パソコン、携帯電話(充電器)、常備薬、マスク、手袋(軍手) 殺菌用手拭きアルコール、水を貯めるキャンプ用ポリタンク

・非常食について:何らかの非常食(お菓子類でもOK)を準備しておくことが必要です。電気やガスが無いと料理できませんので、これらが無くても食べれるものです。

仙台在住 堤 博史



被災地「宮城県南三陸町」を実際に見て来た桑港寺住職、館寺 規弘師のレポートです

このレポートは5月14日に予定していた「災害に対する心構え」講演会で発表される予定でした

3月17日(木)、東日本大震災発生から6日目に、私は兄と共に故郷の宮城県南三陸町に入りました。東京から出発したのですが、高速道路は全面通行止めで、緊急車両優先の中、新潟から山形を抜けて仙台に入るというルートを使いました。

故郷といっても普段はほとんど通ることのない山沿いの道を抜けて行く途中、全面停電し、携帯電話が不通になっているとはいえ、普段と変わらない集落の風景に、地震での被害は少なかったのかと、二人で少し安心した途端に、目の前に津波被害の境界線が現れました。

海岸からの距離でいえばはるか遠いはずの田園地帯が、一面ガレキの山と化していたのです。見渡す限りの壊れた家や船、無理矢理開いた道路以外はまるで空爆でも受けた後のような惨状に、これでは海沿いの実家の地区や商店街が広がる地区はどうなっているのかと不安がよぎりました。案の定、商店街は無惨にも全域が流され、私の実家のお寺がある地区も、高台の敷地を残して壊滅の状態でした。海岸沿いの国道や県道は土台から崩れ、更にはアスファルトが剥がされ、とても普通に通れる状態ではありませんでした。あの時に嗅いだ、ガレキやヘドロの混じった異様な臭いは、この先しばらく忘れることはないでしょう。

その様な悲惨な中でも、両親の無事、実家のある地区の皆さんが全員避難できていたことが、不幸中の幸いでした。ただし、町全体でいえば、すさまじい数の行方不明者、安否未確認者がいるだろうとのことでした。

それからは、一ヶ月半の間、崩れた寺院建物の除去、ガレキの撤去、かろうじて残った建物の清掃作業にひたすら従事しました。僧侶であるが故に、時には火葬に出す遺体の供養のための読経も勤めました。

電気や水道などの全てのライフラインが破壊され、寸断されていたので、最初のうちは極度の水不足、燃料不足に悩まされましたが、自衛隊を始め、日本中、世界中からの支援を受けて、何とかしのいでいるという状況が現在まで続いています。

このような前代未聞の被害を受けては、町の復旧・復興には、気の遠くなるようなお金と時間が掛かることになるでしょう。皆様の温かいご支援に、心の底から感謝申し上げます。

今回、ジャパンクラブからの寄稿依頼を受けて、この原稿を書かせて頂いていますので、会の設立趣旨の一つ(災害時の対応)から見た感想を述べてみたいと思います。

今回の大震災の被害は、ニュース等で皆様もご覧になっている通りですが、地震よりも津波によるものが多かったのです。被災地にて様々な声を聞きましたが、私の故郷を含む三陸地方は、従来地震や津波への備えは怠りのない地域でした。ですが、今回の震災はその備えを遙かに上回る規模の津波を伴うものとなってしまいました。「史上最大規模の地震にはしっかりと耐えた。だが想像以上の大津波には手も足も出なかった。」というのが、今回の大震災の特徴でした。

全く同じ震災が当サンフランシスコに起こるかどうかは判りませんが、少なくとも大きな地震を何度も経験し、地震に対しての備えや、建築の基準等が優れているという点では、共通していると思われれます。ただ津波や火災、携帯電話が不通になるなどの状況下での事故や事件等の二次被害から協力して身を守るという点では、それこそ三重四重の備えをしておいても差し支えはないと思います。

お互いの連絡手段や、連絡に使う場所等は、これがだめならあれ、あれがだめならその次はこれといった形での準備が必要でしょう。また非常時に持ち出すための準備物等々、相互確認をしながらの備えは、普段から怠ることなく進めていくべきものと、この度つくづく実感した次第です。

この報告が皆様のこれからの一助になれば幸いです。最後に改めて、この度の震災に際し、皆様からの暖かい励まし、ご支援に感謝申し上げます。

サンフランシスコ桑港寺住職 館寺 規弘